

# 創立60年記念・第34回全国修学旅行研究大会

## 記念式典 理事長式辞

—平成29年7月26日（水）ホテルグランドヒル市ヶ谷—

皆様、こんにちは。

只今ご紹介いただきました、公益財団法人 全国修学旅行研究協会の理事長 岩瀬正司でございます。本日はお暑い中、しかも公私ともご多用の中、多数の皆様方には、創立60年の記念式典 並びに 第34回全国修学旅行研究大会 にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、文部科学大臣 松野 博一 様のご名代として 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長 坪田 知広 様、また観光庁長官 田村 明比古 様のご名代として、観光庁審議官 菟川 直也 様をご来賓としてお迎えしております。

そして賛助会員並びに私ども協会の事業に、ご理解・支援して下さっている皆様方を代表しまして 近畿日本ツーリスト株式会社 代表取締役社長 田ヶ原 聡 様 にもご列席いただきました。

ご多用にもかかわらず、ご出席いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

さて、日本独特、あるいは日本人の旅の原点の一つでもあると言われるこの修学旅行ですが、第2次世界大戦後の困難な環境の下でもいち早く復活いたしました。しかしながら、食糧・交通事情等の劣悪な中、その実施には様々な困難が付きまとい、旅行中の事故も多発しました。そこで事態を憂慮した教育関係者によって、修学旅行の「教育性の充実」「安全性の確保」「経済性の適正化」を目指して誕生したのが、私たち全国修学旅行研究協会でございます。昭和32（1957）年には当時の文部省から財団法人としての設立の許可を受け、爾来、60年にわたり修学旅行充実のための事業を推進してまいりました。

本日ここに60年の記念式典を開催できますことは、私たち協会の事業を支えてくださったたくさんの方々のおかげであると、気持ちを新たにし、また感謝の念でいっぱいでございます。

そこで私たち協会の原点となっている、全国修学旅行研究協会の「設立趣意書」を改めて読み上げさせていただきます。

### 設立趣意書

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図ることが必要であり、教育界に課せられた責務でもある。

こういう観点から、かつて多年学校教育の実践面及びその指導面を担当してきたわれわれが年来の理想実現のため慎重に協議検討を加えた結果、今やその準備が全く整ったので、ここに財団法人全国修学旅行研究協会を設立し、もって我が国教育の振興に寄与せんとするものである。

以上、設立趣意書でございます。

中国の古い言葉に、「飲水思源」というものがございます。水を飲むときにはその源を思う、つまり井戸の水を飲むときにはその井戸を掘った人に感謝するという意味であります。創立60年を迎えた今、私たちは改めてこの言葉の意味をかみしめ、心に刻まなければいけないと思います。

先人の努力を胸に刻み、そして現在の私たちの活動を支えてくださっている多くの方々に感謝し、そして今後も、修学旅行を通じて日本の学校教育の振興にお役に立っていくことを、創立60年を機としてさらにお誓い申し上げ、式辞といたします。

平成29年7月26日

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

理事長 岩瀬正司